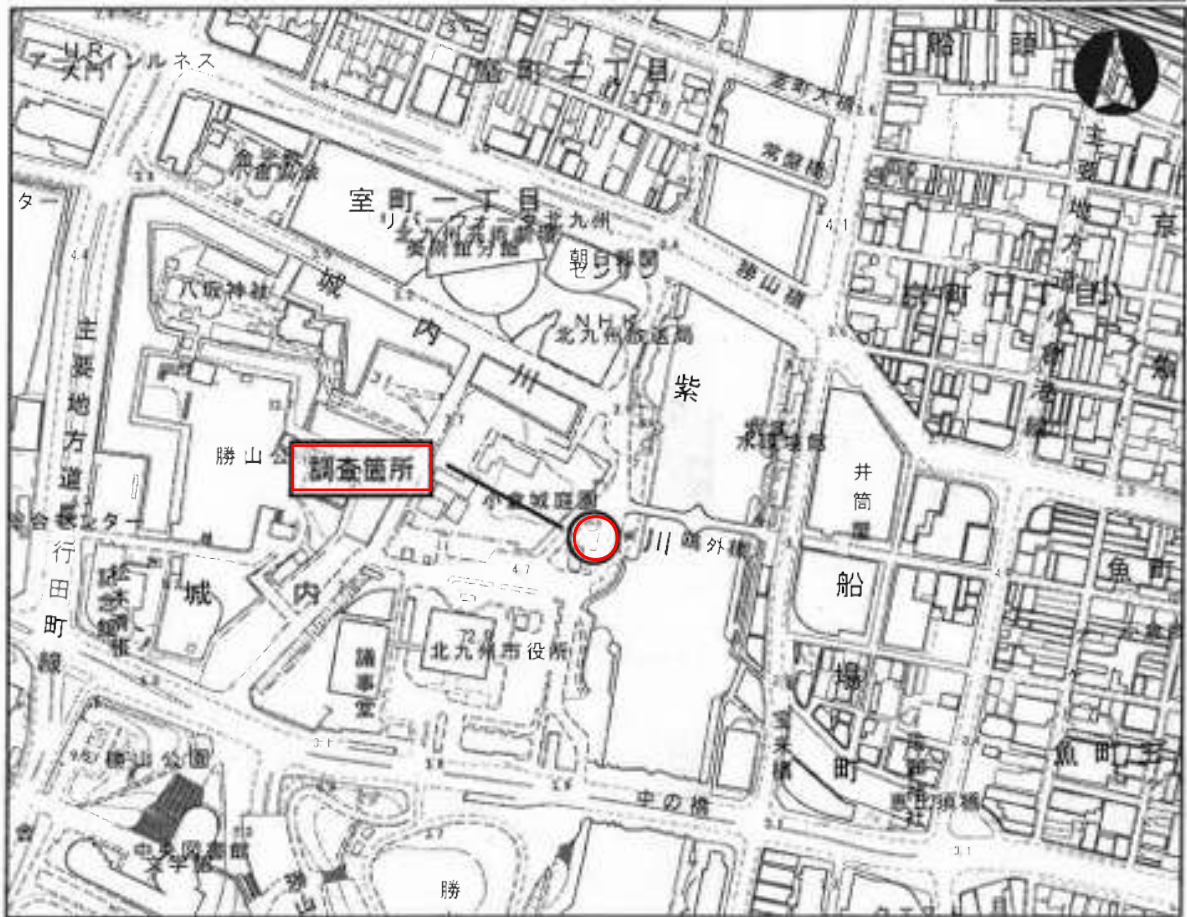


スウェーデン式サウンディング試験位置図

位置図



詳細図



調査名・調査地点

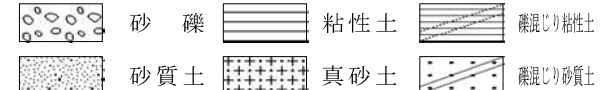
試験年月日 平成 29年 3月 21日

種類

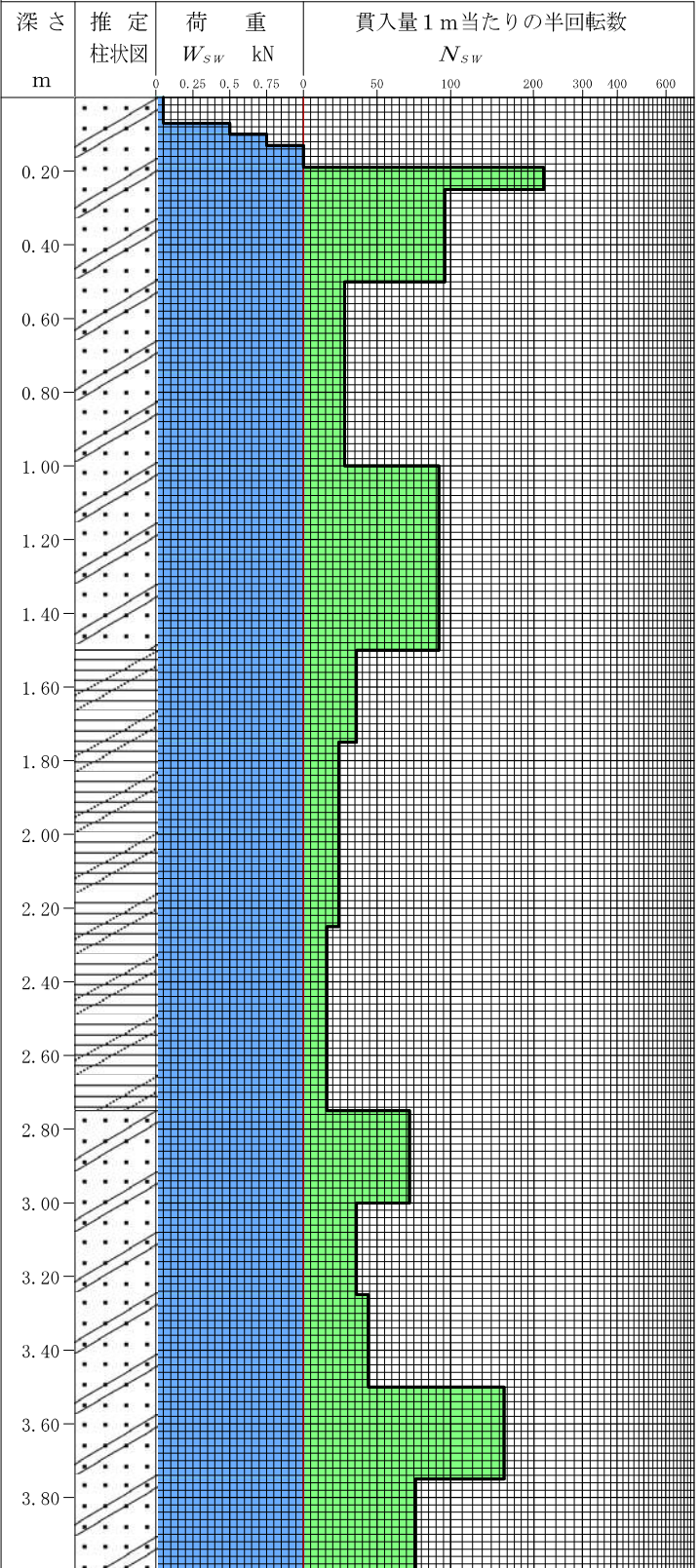
天候 晴れ

試験者

測点番号: B 標高 _____ m
 最終貫入深さ 4.14 m 作業時間 _____

土質記号 凡例

 砂礫 粘性土 氾濫じり粘土
 砂質土 真砂土 氾濫じり砂質土

荷重 W_{sw} kN	半回転数 N_a	貫入深さ D m	貫入量 L cm	1m当りの 半回転数 N_{sw}	換算 N 値	長期許容 応力度 kN/m ²
0.05		0.07	7		0.0	0.08
0.15		0.07	0		0.0	0.68
0.25		0.07	0		0.0	1.88
0.50		0.10	3		1.0	7.50
0.75		0.13	3		1.5	16.88
1.00		0.19	6		2.0	30.00
1.00	13	0.25	6	217	>12.0	>120.00
1.00	24	0.50	25	96	8.4	87.60
1.00	7	0.75	25	28	3.8	46.80
1.00	7	1.00	25	28	3.8	46.80
1.00	23	1.25	25	92	8.1	85.20
1.00	23	1.50	25	92	8.1	85.20
1.00	9	1.75	25	36	4.8	51.60
1.00	6	2.00	25	24	4.2	44.40
1.00	6	2.25	25	24	4.2	44.40
1.00	4	2.50	25	16	3.8	39.60
1.00	4	2.75	25	16	3.8	39.60
1.00	18	3.00	25	72	6.8	73.20
1.00	9	3.25	25	36	4.4	51.60
1.00	11	3.50	25	44	4.9	56.40
1.00	39	3.75	25	156	>12.0	>120.00
1.00	19	4.00	25	76	7.0	75.60
1.00	100	4.14	14	714	>12.0	>120.00



備考

礫・砂・砂質土: $N = 2W_{sw} + 0.067N_{sw}$
 粘土・粘性土: $N = 3W_{sw} + 0.050N_{sw}$

荷重による貫入: $q_a = 30 \times (W_{sw})^2$
 回転による貫入: $q_a = 30 + 0.6 \times N_{sw}$

調査名・調査地点

試験年月日 平成 29年 3月 21日

種類

天候 晴れ

試験者

測点番号: C 標高 _____ m

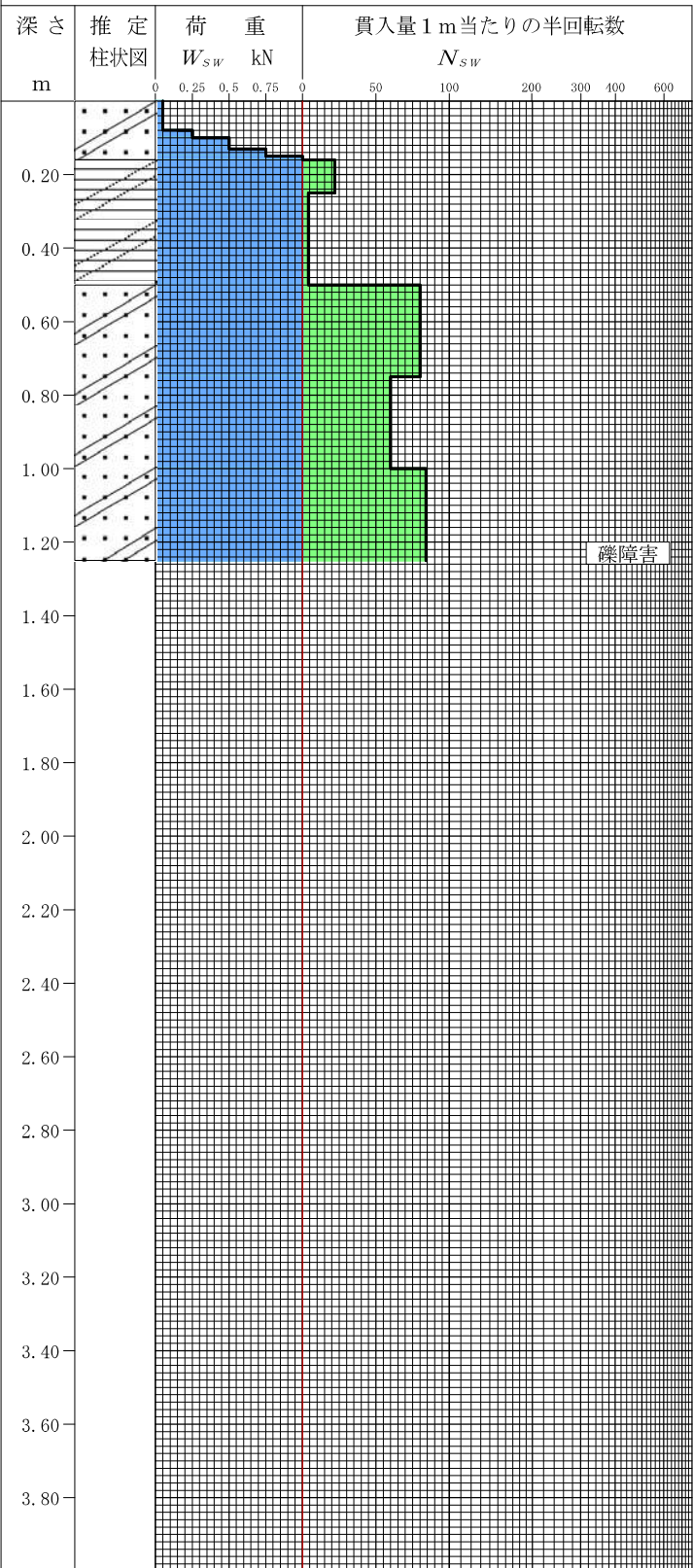
最終貫入深さ 1.25 m 作業時間 _____

土質記号 凡例

砂礫 粘性土 礫混じり粘性土

砂質土 真砂土 礫混じり砂質土

荷重 W_{sw} kN	半回転数 N_a	貫入深さ D m	貫入量 L cm	1m当りの 半回転数 N_{sw}	換算 N 値	長期許容 応力度 kN/m ²
0.05		0.08	8		0.1	0.08
0.15		0.08	0		0.3	0.68
0.25		0.10	2		0.5	1.88
0.50		0.13	3		1.0	7.50
0.75		0.15	2		1.5	16.88
1.00		0.16	1		2.0	30.00
1.00	2	0.25	9	22	4.1	43.20
1.00	1	0.50	25	4	3.2	32.40
1.00	20	0.75	25	80	7.3	78.00
1.00	15	1.00	25	60	6.0	66.00
1.00	21	1.25	25	84	7.6	80.40



備考

礫・砂・砂質土: $N = 2W_{sw} + 0.067N_{sw}$
 粘土・粘性土: $N = 3W_{sw} + 0.050N_{sw}$

荷重による貫入: $q_a = 30 \times (W_{sw})^2$
 回転による貫入: $q_a = 30 + 0.6 \times N_{sw}$

調査名・調査地点

試験年月日 平成 29年 3月 21日

種類

天候 晴れ

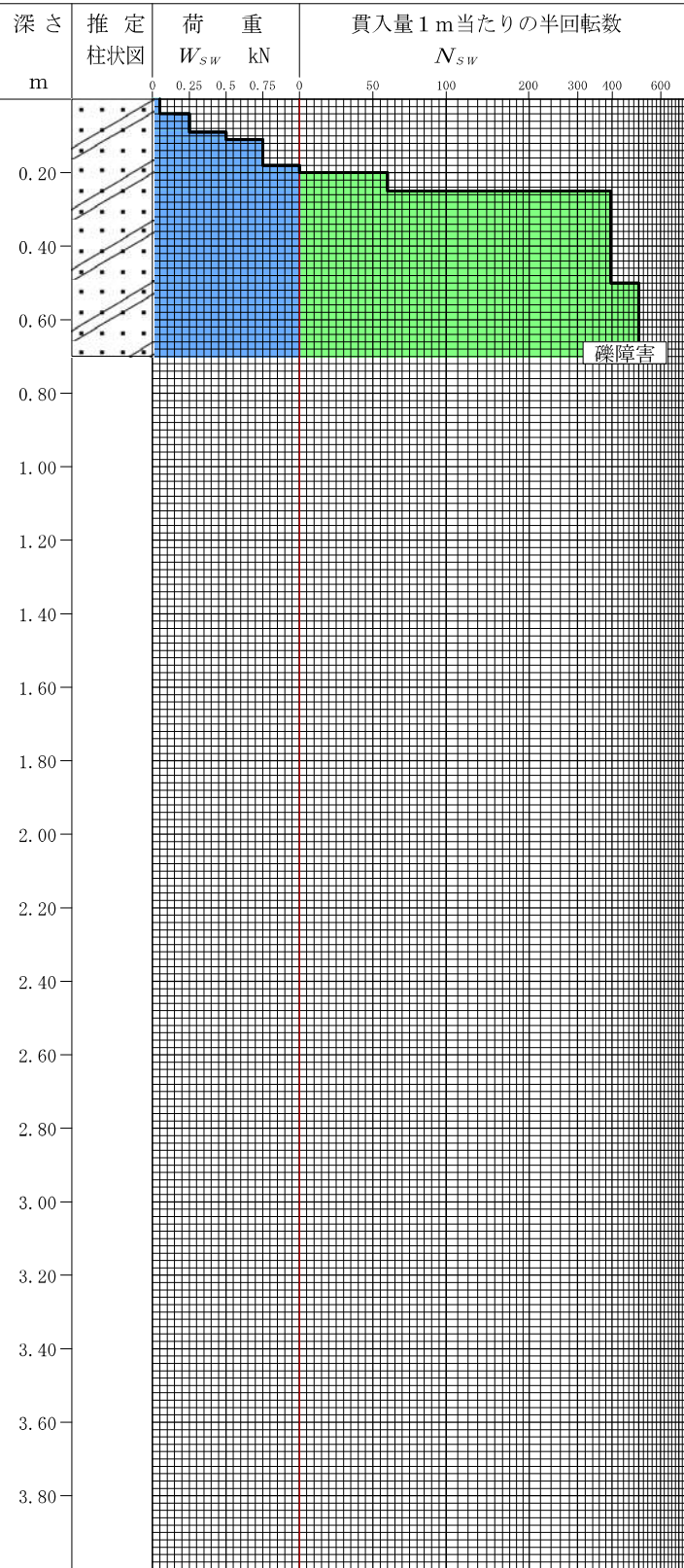
試験者

測点番号: D 標高 _____ m

最終貫入深さ 0.70 m 作業時間 _____

土質記号 砂礫 粘性土 礫混じり粘土
 凡例 砂質土 真砂土 礫混じり砂質土

荷重 W_{sw} kN	半回転数 Na	貫入深さ D m	貫入量 L cm	1m当りの 半回転数 N_{sw}	換算 N 値	長期許容 応力度 kN/m ²
0.05		0.04	4		0.1	0.08
0.15		0.04	0		0.3	0.68
0.25		0.09	5		0.5	1.88
0.50		0.11	2		1.0	7.50
0.75		0.18	7		1.5	16.88
1.00		0.20	2		2.0	30.00
1.00	3	0.25	5	60	6.0	66.00
1.00	99	0.50	25	396	>12.0	>120.00
1.00	100	0.70	20	500	>12.0	>120.00

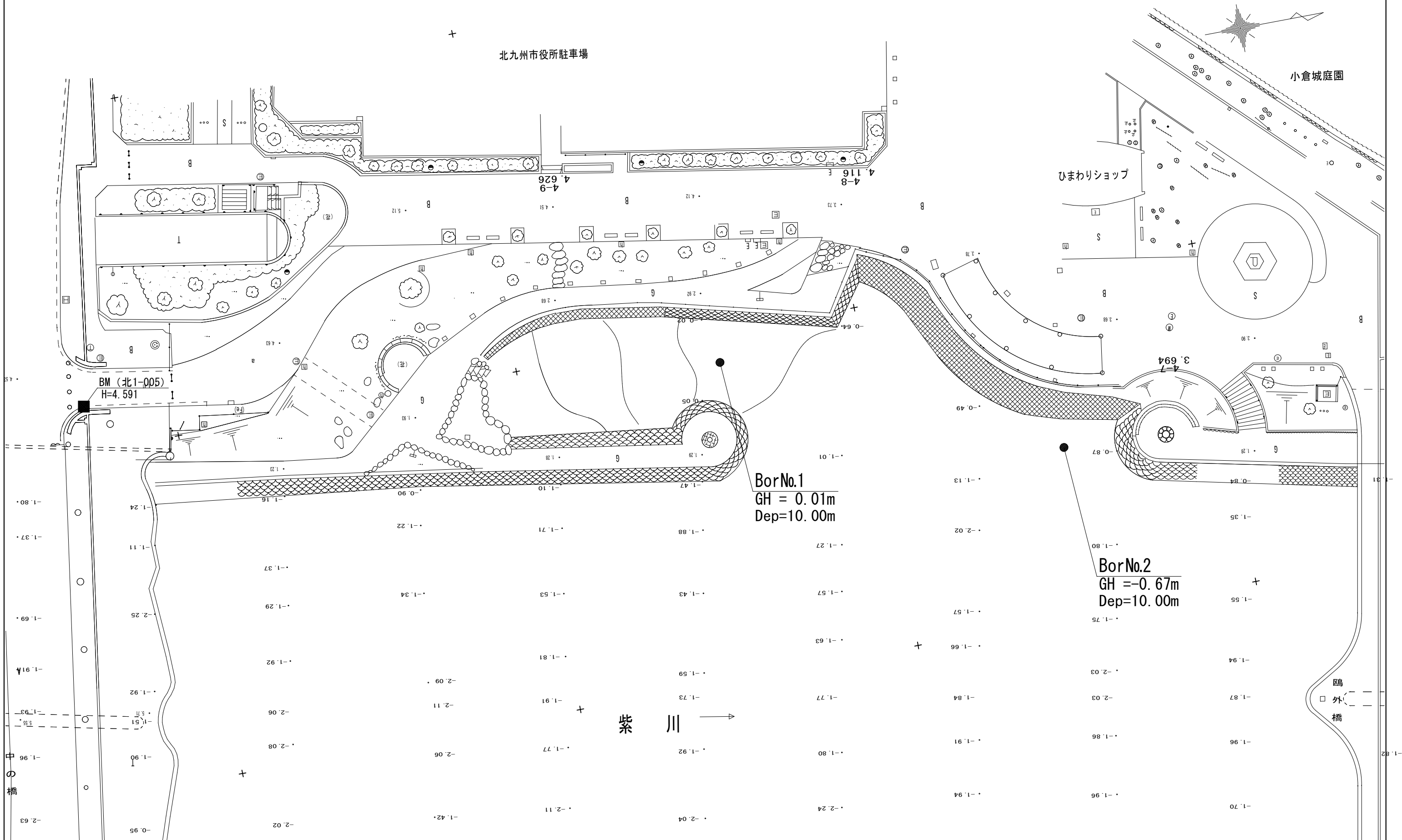


備考

礫・砂・砂質土 : $N = 2W_{sw} + 0.067N_{sw}$
 粘土・粘性土 : $N = 3W_{sw} + 0.050N_{sw}$

荷重による貫入 : $q_a = 30 \times (W_{sw})^2$
 回転による貫入 : $q_a = 30 + 0.6 \times N_{sw}$

調査位置平面図 S=1:500



ボーリング柱状図

設計留意事項3

調査名

ボーリングNo

事業・工事名

シートNo

ボーリング名	No. 1		調査位置	北九州市小倉北区内			北緯	33° 53' 00.43"					
発注機関				調査期間	平成 29年 2月 15日 ~ 29年 2月 16日		東経	130° 52' 34.62"					
調査業者名	電話 ()		主任技師	現場代理人	コア鑑定者	ボーリング責任者							
孔口標高	0.01m	角	180° 上 90° 下 0°	方	北 0° 270° 西 90° 東 180° 南	地盤勾配	鉛直 90° 水平 0° 7°	使用機種	試錐機	吉田製 YBM-05型	ハンマー落下用具	半自動型	
総掘進長	10.00m	度	0°	向				エンジン	ヤンマー製 NFD-12型	ポンプ	吉田製 GP-5型		

標尺 (m)	層高 (m)	層厚 (m)	深度 (m)	柱状図	土質区分	色調	相対密度	相対稠度	記述	孔内水位 (m) / 測定月日	標準貫入試験					原位置試験 深度 (m)	試験名 および結果	試料採取 深度 (m)	採取方法	室内試験 ()	掘進 月日		
											深 (m)	10cmごとの打撃回数 (回)	打撃回数 / 貫入量 (cm)	0	10							20	
	-0.49	0.50	0.50		砂	淡黄褐色	極緩		洲浜公園のため客土。中粒の淘汰された緩い砂。		1.15	8	33	9/5	50/25	60		1.15	1-1	○	密度含水粒度		
1	-1.59	1.10	1.60		砂礫	暗灰	非常に密な		φ20~30mmの亜円礫が主体で、最大礫はφ80mm程度。礫間充填物は粘土が優勢。		1.40	4	3	2	9/30	9		1.40	1-2	○	密度含水粒度		
2	-2.39	0.80	2.40		砂	灰	緩い		中粒砂が主体で細礫が混じる。高含水のシルト混じりで緩い。		2.15	4	3	2	9/30	9		2.15	1-2	○	密度含水粒度		
3	-3.09	0.70	3.10		砂礫	灰~暗灰	緩い		φ20mm大の礫主体で最大φ30mm。砂は中~粗粒でシルトが混じる。		2.45	1	1	1	3/30	3		2.45	1-3	○	密度含水粒度		
4					砂質粘土	暗灰	軟らかい		軟質な砂質粘土。含水は中位で粘性は小~中位。下部の砂は粗粒。腐植物片を少量混入する。所々貝殻片の集中が有る。4.50~5.70m間は砂の薄層を多く挟む。		3.15	1	1	1	3/30	3		3.15	1-3	○	密度含水粒度		
5	-5.69	2.60	5.70		粘土質砂	暗灰	非常に緩い		中~粗粒砂を主体とする。高含水の粘土を多く含み緩い。下部は細礫混じり。		3.45	1	1	1	3/30	3		3.45	1-4	○	密度含水粒度		
6	-6.79	1.10	6.80		粘土混り砂礫	暗灰	中位非常に密な		φ20mm以下の亜円礫が主体で、最大礫はφ30mm程度。粘土はやや固結土状を呈する。下部は含水比低く締まる。		4.15	1	1	1	3/30	3		4.15	1-4	○	密度含水粒度		
7					弱風化粗粒砂岩	褐灰~淡灰	軟岩		弱風化された軟質な岩盤。一部は薄く粘土化するが、岩組は明瞭。調査地の基盤である。構造物基礎地盤に適する。		4.45	1	1	1	3/30	3		4.45	1-5	○	密度含水粒度		
8	-8.59	1.80	8.60		粘土質砂	暗灰	非常に密な		中~粗粒砂を主体とする。高含水の粘土を多く含み緩い。下部は細礫混じり。		5.15	1	1	1	3/30	3		5.15	1-5	○	密度含水粒度		
9					弱風化粗粒砂岩	褐灰~淡灰	軟岩		弱風化された軟質な岩盤。一部は薄く粘土化するが、岩組は明瞭。調査地の基盤である。構造物基礎地盤に適する。		5.45	1	1	1	3/30	3		5.45	1-6	○	密度含水粒度		
10	-9.99	1.40	10.00		弱風化粗粒砂岩	褐灰~淡灰	軟岩		弱風化された軟質な岩盤。一部は薄く粘土化するが、岩組は明瞭。調査地の基盤である。構造物基礎地盤に適する。		6.15	1	1	1	3/30	3		6.15	1-6	○	密度含水粒度		
											6.45	7	6	3	16/30	16		6.45	1-7	○	密度含水粒度		
											7.15	12	20	18/8	50/28	54		7.15	1-7	○	密度含水粒度		
											7.45	44	6	1	50/11	136		7.45	1-8	○	密度含水粒度		
											8.15	50	7		50/7	214		8.15	1-8	○	密度含水粒度		
											8.43	50	7		50/7	214		8.43					
											8.45							8.45					

ボーリング柱状図

調査名

ボーリングNo

事業・工事名

シートNo

ボーリング名	No. 2	調査位置	北九州市小倉北区内			北緯	33° 53' 01.91"
発注機関		調査期間	平成 29年 2月 20日 ~ 29年 2月 21日			東経	130° 52' 35.50"
調査業者名	電話 ()	主任技師	現場代理人	コア鑑定者	ボーリング責任者		
孔口標高	-0.67m	角	180° 上 90° 下 0°	方	北 0° 270° 西 90° 東 180° 南	地盤勾配	鉛直 90° 水平 0° 5°
総掘進長	10.00m	使用機種	試錐機	吉田製 YBM-05 型		ハンマー落下用具	半自動型
		エンジン	ヤンマー製 NFD-12 型		ポンプ	吉田製 GP-5 型	

標尺 (m)	層高 (m)	層厚 (m)	深度 (m)	柱状図	土質区分	色調	相対密度	相対稠度	記号	標準貫入試験	原位置試験	試料採取			室内試験 (月日)	掘進						
												深	10cmごとの打撃回数				深	試験名	深	採取番号	採取方法	
													度 (m)	0								10
					シルト	暗灰	極軟		高含水比で軟弱。													
1	-1.27	0.60	0.60		粘土混り砂礫	暗灰	非常に密な中位		φ20mm程度の硬質円礫が主体。最大礫はφ60mm程度。砂は中粒で粘土が混じる。部分的に砂が優勢で、礫混じり砂状を呈する。含水量は多い。	43												
2					砂混り粘土	暗灰	軟らかい		高含水比で軟質。細粒砂混じりで粘性は小さい。貝殻片や細礫が少量混じる。	17												
3					粘土質砂	暗灰	極緩		高含水粘土が混じる緩い細砂。少量の貝殻片が混じる。	14												
4	-4.27	3.00	3.60		粘土混り砂礫	暗灰	中位		φ20mm前後の硬質な亜円礫が主。最大礫はφ40mm程度。砂は中粒。下部の粘土はやや固結土状。	3												
5					弱風化礫岩	褐灰	軟岩		弱風化された軟質な岩盤。岩組織は認められる。8.50~8.80m間は固結土状の頁岩を挟む。調査地の基礎盤である。構造の基礎地盤に適する。	3												
6										17												
7										20												
8	-8.77	2.30	8.10							54												
9										150												
10	-10.67	1.90	10.00							125												